

# 平成31年度研究推進計画書

学校名 伊丹市立笹原中学校

校長名 菰口 太志 印

## 1 研究形態 発表校 **※研究発表11月29日(金)**

## 2 学校教育目標

自ら勉学に励み、自ら心身を鍛え、自ら進路を切り開く知・徳・体バランスのとれた人間力ある生徒の育成

## 3 前年度の研究

### (1) テーマ

生き方を考え、主体性を持ち、進路実現に向かって学び続けるキャリア教育の実践と検証

### (2) 成果と課題

#### 【成果】

- ・昨年度から継続し授業のユニバーサルデザインを基本とした校内授業公開の実施。
- ・「めあて」の提示に加え、「ふり返り」の実施に重点を置いた授業の実施。
- ・笹トレに確立、継続実施ができた。学校評価の「笹トレで教え合いは学力向上に効果がある」という項目において前年度と比較し16ポイント上昇した。生徒も教え合い、チーム学習に対し効果を感じていると考えられる。
- ・生徒にボランティア活動をさせる取り組みとして「笹中地域サポーター制度」を構築・運営した。ボランティア5回参加によってボランティア・マスターとして認定する。その活動をきっかけに自主的なボランティア活動を行い、10回以上活動した生徒も出た。学校評価の「地域活動に参加している」という項目において、前年度と比較し9ポイント上昇した。
- ・授業評価アンケートを1学期と3学期に実施し、教師の授業改善を図った。
- ・道徳の教科化に向け、ローテーション道徳の期間に全教員が所見を書いた。その所見をもとに3学期に研修を行った。

#### 【課題】

- ・授業作りを行う上で指導案の書き方に不安を抱える若手教員も多く、今年度は指導案の研修を夏季研修で行った。今後、継続して授業作りを念頭に置いた指導案の研修を継続していく必要がある。あわせて、新学習指導要領が求める3つの学力観、キャリア教育が求める4つの「基礎的・汎用的能力」、生徒指導の3機能を日々の授業実践とどのようにつなぐかを、全職員が共有していく必要がある。
- ・学校評価で「授業で話し合いや発表をする場面で、積極的に発言できる」という質問項目でAB評価が61.6%と低かった。話し合い活動のルールは学校で統一しているが、実際の活動では思

うような発言ができない、話し方の工夫がわからないと感じている生徒もいる。

- ・ 笹トレを1対1の学習へ展開させていく。今年度は2, 3年生の教室において1対1の班を増やした。継続して取り組んでいく。
- ・ 異学年での教え合い、学び合いの発展をさせていく。笹トレを基盤とし、朝読書や掃除、トライやる・ウィーク、集団行動（体育）などで先輩から学ぶ機会をさらに増やしていきたい。
- ・ 道徳教育では、道徳にも「ねらい」があるといった授業作りや評価の部分が弱い教員もいる。継続した研修を行っていく必要がある。

#### 4 本年度の研究（昨年度からの継続）

##### (1) テーマ

生き方を考え、主体性を持ち、進路実現に向かって学び続けるキャリア教育の実践と検証

##### (2) テーマ設定の理由

###### ① 平成29年度教職員アンケートの意見【平成30年1月実施】

###### ・ 自主性主体性の欠如

生徒が目標をもち、主体的に動くことが少なく、見通しをもった行動ができないと感じることが多い。

###### ・ 家庭での学習や生活習慣の未定着

家庭学習時間が少ない生徒が多い。スマホやTVの時間が長いため、家庭学習習慣や読書習慣がない。

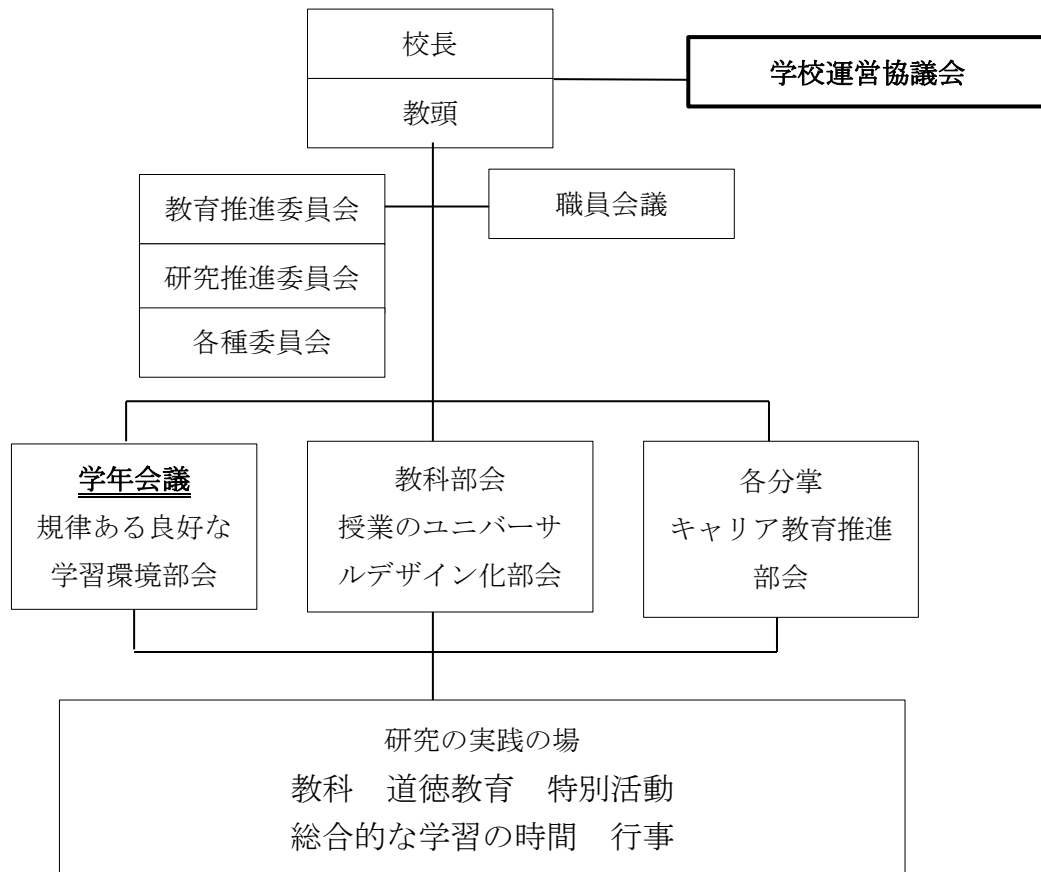
###### ② 学校評価・生徒の実態より

生徒は落ち着いた態度で授業、学校行事に臨んでいる。平成29年度よりユニバーサルデザインを意識した授業作り、ICT機器の活用を継続してすすめている。学校評価では「授業はわかりやすく楽しい」と肯定的に回答する生徒が昨年度より13.7ポイント上昇した。「ICT機器の活用」についても6.4ポイント上昇している。また、3年目を迎える「笹トレ」を継続発展させることにより、基本的・基礎的な学力の定着とキャリア教育の推進を図り笹原中学校に教え合いの文化を根付かせる。平成27年度から研究を進めている「ユニバーサルデザイン化」については引き続き研究を深めていく。

一方で、生徒自身が将来について具体的に考えにくい部分もある。11月に実施したhyperQUでは、「なりたい職業や興味をもっている職業がある」と回答した生徒が75.2%（1年）、65%（2年）だった。一方で、「自分の進みたい職業の分野について調べている」と回答した生徒が51.9%（1年）、46.1%（2年）、「進路について友人と話すことがある」と回答した生徒が51.2%（1年）、51.1%（2年）となっている。生徒は興味のある職業があっても、実際にどのように動けばいいのかわからない実態もある。

そのことが、学習意欲にも影響を及ぼしている。「学校の勉強は自分から進んで取り組んでいる」と回答した生徒が、63.6%（1年）、55.3%（2年）だった。各教科の授業が将来どのような役に立つのか、ということを生徒にも伝え意識させていく必要があると考えられる。自ら考え自ら行動できる生徒の育成を図るため、キャリア教育に力を入れることにした。

(3) 研究推進体制



アドバイザー

キャリア教育 hyper-QU 笹トレ 道德教育  
 特別支援教育 教育のユニバーサルデザイン  
 各授業研究のアドバイザー

伊藤 博先生  
 後野 文雄先生  
 伊丹市教育委員会指導主事

(4) 研究推進計画

研究の方向性

- ① 生徒の基礎学力定着のためのシステムの確立
- ② 笹トレ（教え合い学習）の改善
- ③ 授業規律の徹底
- ④ キャリア教育の推進
- ⑤ めあて、振り返り、評価基準の事前提示の徹底
- ⑥ 授業評価システムの導入
- ⑦ 自主学習の導入
- ⑧ 問題解決力の育成（道德教育の推進）
- ⑨ 確実な検証
- ⑩ 若手教員研修（笹原ぱんだクラブ）の充実

## 取り組み内容

### ①生徒の基礎学力定着のためのシステムの確立（ユニバーサルデザイン）

- ・ICT 機器の活用の推進
- ・各教室にプロジェクターや電子黒板、ホワイトボード、タイマーの設置活用。
- ・全教員が公開授業を最低1回は行う。1学期、2学期にグループで研究授業を行う。
- ・授業の展開における課題設定、発問や指示を工夫する。教え合いの手法を取り入れる。
- ・ノートやワークシートに○をつけるなど、机間指導を工夫する。
- ・小学校の研究授業に積極的に参加し、中1ギャップをうめる。（小中連携の強化）
- ・未来につなげる笹手帳の活用（学習習慣の確立）

### ②笹トレ（協働学習）の改善

- ・原則水曜日に年間約20回の7校時学習をする。基礎的・基本的な知識技能の習得とピアサポートによる学習意欲の育成を図る。
- ・昨年度から始めた笹トレを継続発展させる。今年度は生徒の1対1の教え合いを増やす。
- ・教え合いを笹トレだけでなく、掃除、朝読、集団行動など様々なことを教える。
- ・学校評価で「授業で話し合いや発表をする場面で、積極的に発言できる」と回答した生徒が昨年度より、7.8ポイント上昇した。しかし、61.6%とまだ低い。話し合いを行う中で、いい発言をした生徒は褒める等、教師の働きかけを増やす。
- ・チーム学習を進めるために担任だけでなく、教科担当も座席位置を工夫する。

### ③授業規律の徹底

- ・授業の挨拶の徹底（姿勢指導）
- ・全教室に正しい姿勢のイラストを掲示し、常に意識をさせる。
- ・もくもく清掃の徹底（清掃の流れのルール of 徹底、ぞうきんの色分け）
- ・もくもく移動の徹底
- ・**専門委員会の活性化**

### ④キャリア教育の推進

- ・マナー講座の導入

よりよい人間関係を築くことや社会生活に必要なマナー（礼儀）の大切さを知らせるとともに、望ましい話し方や作法などを学ばせることで、コミュニケーションスキルの向上を図る。マナー検定を通して自己肯定感を高めさせるようにマナー検定を導入する。

#### （1）面接

集団面接時における対応（敬語を使った丁寧な話し方）ができるようにする。1，2年生は2回、3年生は1回の面接を行う。

#### （2）その他のマナー検定について

マナー講話を行う

- ・生徒会活性化

平成29年度よりコミュニティースクールに認定された。今までやってきた、地域への活動を生徒と地域が一体となり取り組むことで、社会貢献する力を育む。生徒にボランティア活動をさせる取り組みを実施する。平成30年度より始まった「笹原中学校地域サポーター制度」を継続し、ボランティア・マスターの認定生徒を増やしていく。

⑤めあて、振り返り、評価基準の事前提示の徹底

- ・めあてと振り返りの強化

前年度と比較し「毎回授業でめあてが示されている」が4.2ポイント、「授業の最後に振り返りを行っている」が19.1ポイント上昇した。「振り返り」はサクセスシートを1、2年生で実施したことにより、意識が高まったと考えられる。継続して取り組んで行く。

- ・シラバスの作成

シラバスを活用し、評価基準を事前に提示する。また、不登校生徒が増えてきているので、不登校生の評価の付け方について、検討し特に丁寧に保護者生徒に説明をする。キャリアの視点をシラバスに入れ、授業が将来にどうつながるかを生徒にも意識できるようにする。

⑥授業評価システムの充実

- ・1学期・3学期に授業評価を行い、教師の授業改善に役立てる。

⑦自主学習の充実（家庭学習の改善）

- ・サクセスシートを活用する。

- ・教科ごとに出している課題を基礎問題、応用問題、発展問題などランクをつけ、基礎問題は全員課題とし、応用問題と発展問題は個人の判断で、取り組んだ分だけ評価を行う。

⑧問題解決力の育成（道徳教育の推進）

- ・道徳教育の推進

平成31年度教科化に向けて指導案の検討に力を入れるとともに、評価の役に立つように、生徒の思いが書かれたノートなどの記録を残していく。ローテーションは学校統一で行う。

⑨確実な検証

- ・学校評価の質問内容を考え、生徒や保護者の評価が正しく返ってくるようにする。
- ・学力調査（CRT、全国学力調査）、体力調査、hyper-QU、学校評価のデータを注視する。
- ・生徒に学習アンケートをとり、経験則で判断するのではなく数値で判断するようにする。

⑩若手教員研修（笹原ぱんだクラブ）の充実

年間9回程度実施し、若手教員の指導力向上を図る。外部で受けた研修を職員が校内で伝達する。

(5) 研修会の年間予定

| 月  | 内 容   | 月   | 内 容                           |
|----|---|-----|-------------------------------|
| 4月 | 生徒指導、進路指導、特別支援学級、生徒支援、キャリア教育 笹トレ                | 10月 | キャリア教育                        |
| 5月 | キャリア教育<br>教育のユニバーサルデザイン                         | 11月 | 研究発表会                         |
| 6月 | 授業研究  | 12月 | hyper-QU の分析                  |
| 7月 | hyper-QU 等の分析<br><u>授業評価</u>                    | 1月  | 学校評価                          |
| 8月 | 小中連携 人権教育<br>教育のユニバーサルデザイン<br>道徳教育、笹トレ、通級指導について | 2月  | シラバスの作成                       |
| 9月 | 授業研究<br>校内授業研究                                  | 3月  | 研究のまとめ、次年度に向けて<br><u>授業評価</u> |

※若手教員の研修を年9回程度行う

(6) 研究領域・教科等

研究領域・教科等（該当するものに○をつけてください）

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 学級経営   | <input type="checkbox"/> 教科・・・教科名「全教科」 |
| <input type="checkbox"/> 総合的な学習 | <input type="checkbox"/> 教育課程          |
| <input type="checkbox"/> 道徳教育   | <input type="checkbox"/> 人権教育          |
| <input type="checkbox"/> 環境教育   | <input type="checkbox"/> 福祉教育          |
| <input type="checkbox"/> 生徒指導   | <input type="checkbox"/> 情報教育          |
| <input type="checkbox"/> 国際理解教育 | <input type="checkbox"/> 特別支援教育        |
| <input type="checkbox"/> 性教育    | <input type="checkbox"/> 評価            |
| <input type="checkbox"/> 特別活動   | <input type="checkbox"/> その他「授業改善」     |